

## 平成30年度学芸員等在外派遣研修実施報告書

大阪市経済戦略局 博物館運営企画室  
(大阪中之島美術館準備室)  
松山ひとみ

平成30年度学芸員等在外派遣研修の実施結果について、下記のとおり報告します。

1 研修テーマ 美術に関するアーカイブコレクションの効率的な情報化の手法  
ならびに情報資源共有のための技術

2 研修期間 平成31年2月1日～平成31年2月28日

### 3 研修概要

#### (1) 研修先の名称

ゲッティ研究所 Getty Research Institute

#### (2) 研修の内容

図書に加え、9,000件を超える美術関連資料（Special Collections＝特別コレクション、一次資料）を所蔵し、北米のみならず世界の美術研究拠点として多くの研究者に利用されているゲッティ研究所に滞在し、美術関連資料（アーカイブズ）群の迅速な情報化の手法について、現場で実際に作業を行いながら、専門のアーキビストからアーカイブ処理実務（Processing）を教えていただいた。また、収集、資料保存、デジタル化プロジェクト管理、情報サービスといった特別コレクションのアーカイビングに関わる一連の業務フロー、ならびに機関アーカイブズの管理について、ゲッティ研究所内の各担当者からお話をうかがった。

加えて、ゲッティ研究所の運営する Getty Vocabularies（The Art & Architecture Thesaurus [AAT]、The Union List of Artist Names [ULAN]などからなる）といった美術史に関する国際的な標準語彙プログラムや、特別コレクション部門がとくに今後協力体制を強化していく Social Networks and Archival Context (SNAC) プロジェクトについて、日本の文化情報機関のひとつである美術館のこれからの貢献に向け、現状や参加方法に関する情報をいただいた。

#### (3) 研修の成果

本研修の成果は、上記の研修内容に則して、①美術関連資料の処理、②機関アーカイブズ、③情報連携の項目ごとに報告する。

## 1. はじめに

### 1.1 ゲッティ研究所とコレクションの情報化について

1954年に実業家で美術品収集家のJ・ポール・ゲッティがマリブに開設したゲッティ美術館は、創立者であるゲッティ氏の没後、視覚芸術および芸術に関する情報の世界に寄与したいという氏の遺志に従って拡張されることとなり、1983年、サンタモニカに「美術と人文学の歴史のためのゲッティ・センター (Getty Center for the History of Art and the Humanities)」が設立された。これを基礎として収蔵資料を増やし、1985年からは独立の美術研究図書館として館長が配置され、ゲッティ研究所 (Getty Research Institute) の活動が始まる。ブレントウッド (ロサンゼルス) の丘の上にある現在の複合施設 (美術館、美術研究図書館、保存修復研究所などからなる Getty Center) は1997年に完成し、美術作品・関連資料の収集、展覧会、保存修復、研究助成、出版、教育プログラムなど、多様な利用者に向けさまざまな活動を展開している。

ゲッティ研究所のライブラリーコレクションは、文献資料 (一般図書、定期刊行物、オークションカタログ140万冊以上) のほか、アーカイブズなどの一次資料や希少価値の高い貴重資料 (書物、版画・素描アルバムなど) を含む特別コレクション、美術作品や建築物などを記録撮影した200万点もの研究写真により構成される写真アーカイブ、J・ポール・ゲッティやゲッティ財団の活動に関する機関アーカイブズからなる。年々増加するこれらのコレクションは、オンライン図書館カタログPrimo (図1、ExLibris社のディスカバリーシステム) から一元的に検索が可能である。

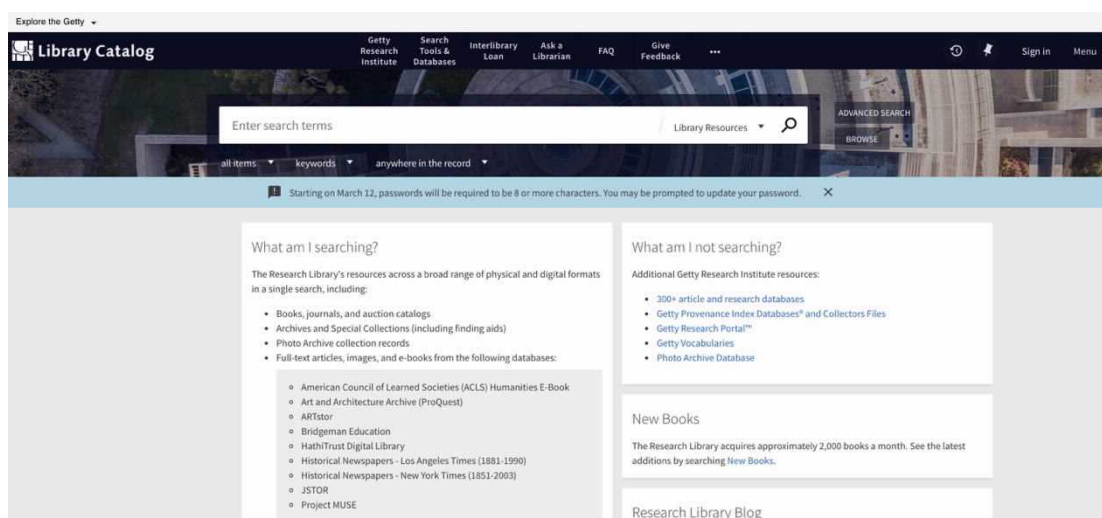


図1 Primo (図書館カタログ)

また、この図書館カタログにおいて検索される特別コレクションのうち、収集アーカイブズ (美術家や美術史家の個人資料や美術団体等の記録類) については、アーカイブズを記述し検索可能にするための検索手段 (Finding Aids) へのリンクが提供されている (図2、リンク先の検索手段は図3)。

**MANUSCRIPT/ ARCHIVE**  
 Barbara T. Smith papers.  
 Smith, Barbara Turner, 1931- creator.

Available at Special Collections - CONTACT REFERENCE (2014.M.14 ) and other locations

TOP ACTIONS DETAILS LINKS REQUEST VIRTUAL SHELF

Actions: PRINT, E-MAIL, PERMALINK, CITATION, RIS, EXPORT BIBTEX, ENDNOTE WEB, EASYBIB, REFWORKS

Details:

**Title:** Barbara T. Smith papers.  
**Author/Creator:** Smith, Barbara Turner, 1931- creator.  
**Creation Date:** 1927-2012  
**Finding Aid:** Connect to finding aid for the Barbara T. Smith papers  
**Biographical/Historical Note:** Barbara Turner Smith (born in Pasadena, California in 1931) has been at the forefront of artistic movements in California for over fifty years, particularly in the areas of performance and feminist art. Her work – which has taken the varied forms of painting, drawing, installation, video, performance, and artists' book, and often involves her own body as a vehicle for her art – explores concepts that strike at the core of human nature, including male and female sexualities, physical and spiritual sustenance, ecology, technology, and death.

**Arrangement:** Arranged in six series: Series I. Personal papers, 1949-2011, undated; Series II. Artworks, early 1940s-1994, 2003, 2009, undated; Series III. Project files, 1960s-2012, undated; Series IV. Professional files, 1948-2012, undated; Series V. Photographs, 1959-2009, undated; Series VI. Audio visual recordings, 1927, 1935-1941, 1967-2012, undated.

**Physical Desc.:** 360 boxes (185.6 linear feet).  
 9 flatfiles.  
 1 audio disc : analog, 45 rpm, stereo ; 7 in. original.  
 246 videocassettes of 246 (VHS) ; 1/2 in. original.  
 195 videocassettes of 195 (U-Matic) ; 3/4 in. original.  
 13 videocassettes of 13 (Betacam SP) ; 1/2 in. original.  
 75 videocassettes of 75 (Hi8) ; 8 mm original.  
 4 videocassettes of 4 (Betamax) ; 1/2 in. original.  
 27 videocassettes of 27 (MiniDV) ; 1/4 in. original.

図 2 Primo 上の収集アーカイブズ情報

Collection Inventories and Finding Aids

Home | Return to Search Results Find a term within this inventory [Print View](#)

Barbara T. Smith papers, 1927-2012, undated, bulk 1948-2012

Request access to the physical materials described in this inventory through the [catalog record](#) for this collection. Click here for the [access policy](#).

<p><b>Descriptive Summary</b></p> <p><b>Biographical/Historical Note</b></p> <p><b>Scope and Content of Collection</b></p> <p><b>Restrictions</b></p> <p><b>Indexing Terms</b></p> <p><b>Related Material</b></p> <p><b>Administrative Information</b></p> <p><b>Container List</b></p> <p>Series I. Personal papers, 1949-2011, undated</p> <p>Series I.A. Diaries, 1950s, 1964-2009, undated</p> <p>Series I.B. Correspondence, 1957-2011, undated</p> <p>Series I.C. Miscellaneous, 1949-2011, undated</p> <p>Series II. Artworks, early 1940s-1994, 2003, 2009, undated</p> <p>Series II.A. Artists' books, 1963-1979, 1985-1994, 2009, undated</p> <p>Series II.B. Drawings and paintings, 1950-1984, undated</p> <p>Series II.C. Prints, 1950s-1964, 1970-1979, 2003</p> <p>Series II.D. Sketchbooks, early 1940s-late 1980s</p> <p>Series II.E. Xerox artworks, optiv and related material, 1964-1979, undated</p> <p>Series III. Project files, 1960s-2012, undated</p> <p>Series IV. Professional files, 1948-2012, undated</p> <p>Series IV.A. Artist files, 1963-2012, undated</p> <p>Series IV.B. Press clippings, 1960-2012, undated</p> <p>Series IV.C. Research files, 1949-2004, undated</p> <p>Series IV.D. Teaching and workshop files, 1949-1997, 2003, undated</p> <p>Series IV.E. Miscellaneous, 1951-2011, undated</p> <p>Series V. Photographs, 1959-2009, undated</p> <p>Series V.A. Personal, 1963-1995, 2002-2008, undated</p> <p>Series V.B. Projects, 1960-2009, undated</p> <p>Series V.C. Topical, 1959-1998, undated</p> <p>Series VI. Audiovisual materials, 1927, 1935-1941, 1967-2011, undated</p> <p>Series VI.A. Personal, 1927, 1935-1941, 1967-2009,</p>	<p><b>Title:</b> Barbara T. Smith papers  <b>Dates:</b> 1927-2012, undated, bulk 1948-2012  <b>Number:</b> 2014.M.14  <b>Creator/Collector:</b> Smith, Barbara Turner  <b>Extent:</b> 185.6 Linear Feet (360 boxes, 9 flatfiles)  <b>Abstract:</b> Barbara Turner Smith (American, born 1931) is one of the most influential figures in the history of performance and feminist art in Southern California. Her work – which has taken the varied forms of painting, drawing, installation, video, performance, and artists' books, and often involves her own body – explores concepts that strike at the core of human nature, including male and female sexuality, physical and spiritual sustenance, ecology, technology, and death. The archive, which offers an exceptionally rich resource for Smith's highly personal artistic practice, contains 160 diaries, 54 sketchbooks, hundreds of drawings, more than 850 vintage prints, thousands of negatives and contact sheets, approximately 90 films and 1100 audio and video tapes, in addition to all the notes, plans, and archival records related to her artistic projects from her student days forward. The archive encompasses not only Smith's career as an artist, but also her work as a writer, teacher, and advocate of the arts in Los Angeles.</p> <p><b>Request Materials:</b> Request access to the physical materials described in this inventory through the <a href="#">catalog record</a> for this collection. Click here for the <a href="#">access policy</a>.</p> <p><b>Language:</b> Collection material is primarily in English with some material in other languages.</p> <p><b>Repository:</b> The Getty Research Institute  Special Collections  1200 Getty Center Drive, Suite 1100  Los Angeles 90049-1688  reference@getty.edu  URL: <a href="http://hdl.handle.net/10020/askfr">http://hdl.handle.net/10020/askfr</a>  (310) 440-7390  Pietro Rigolo</p>
--	---

図 3 検索手段

これらの公開情報を用いて調査者自身が資料の所蔵を確認できるだけでなく、ゲッティ研究所は、メールなどによる問い合わせに応えるレファレンスサービスを提供している。ゲッティ研究所の登録利用者は事前申請によりこれらの貴重資料についても現物（またはアクセスコピー）を閲覧することができ、個人的な利用目的に限っては資料の写真撮影も許可されていることから、近年閲覧室の拡張計画が必要となるほど、多くの研究者がここを訪れている。（図 4）



図 4 特別コレクション閲覧室

## 1.2 ゲッティ研究所の特別コレクション

ゲッティ研究所における特別コレクションの主な収集領域は、15世紀から今日までの美術関係資料、カテゴリとしては、錬金術、建築・デザイン、美術家の装丁本、美術家の手紙類、近現代の美術潮流（ダダ・シュルレアリスム、イタリア未来派、日本の前衛、他）、視覚玩具・プレシネマ、ビデオアートやパフォーマンスに関連する資料群がコレクションポリシーに沿って、受贈または購入により収集されており、物理的な量としては75,000冊ほどの貴重書、6km（書架延長）のアーカイブズコレクション（Manuscripts and Archives）等が含まれている。新たにもたらされる資料群の規模はさまざまで、8～9名の専門キュレーターを介して年間200件ほどの打診があるという。資料の価値は収集担当キュレーターらが評価し、必要な情報を収集担当部署（資料の運搬スケジュール調整なども行う）で集約し確認したうえで、インハウスの法務部門（法律家2名）の承認を経て、特別コレクションへの収蔵が完了する。収蔵された資料については、情報化の作業プランや進行状況に関わらず、まずはその資料の存在が外からも見えるよう、収蔵手続きに関する書類（Acquisition Approval Form）の情報を基礎に資料群の概要を作成し、図書館カタログPrimoに登録する。し

たがって、まだ閲覧可能な状態になっていない「未処理 (unprocessed)」の資料群であっても、その所在をカタログ上に確認できる。一方、Primo からの検索だけでなく、ゲッティ研究所ウェブサイトには、特別コレクションのページがあり、新たに入手したアーカイブズや大規模デジタル化の済んだ資料群などが随時紹介されている。

(図 5)

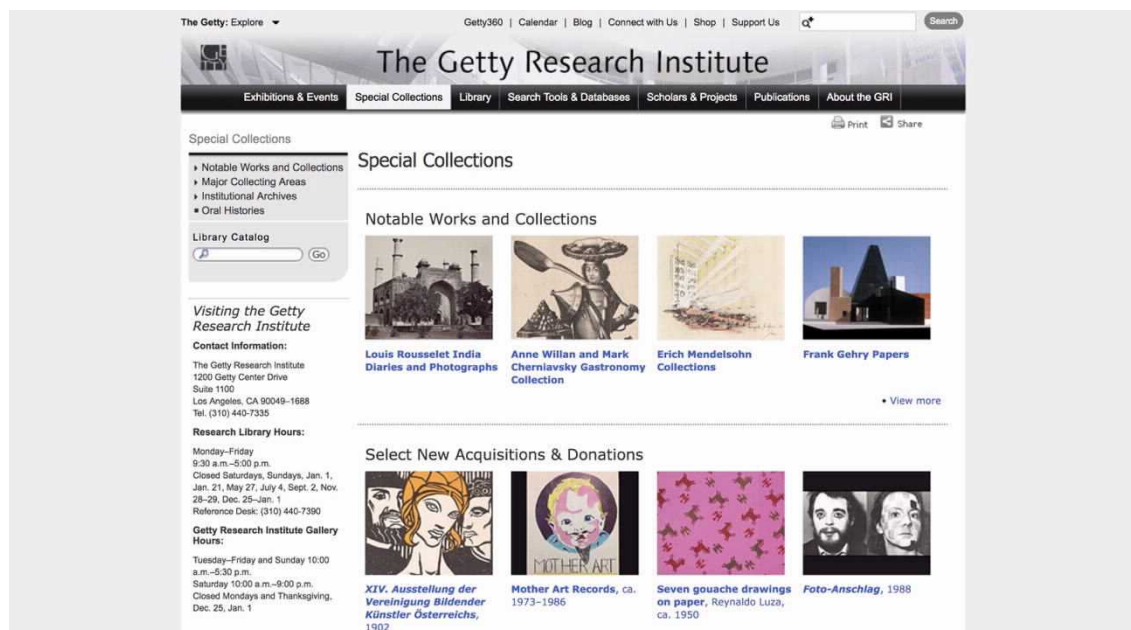


図 5 特別コレクションの Web ページ

### 1.3 日本の美術館における美術資料の現状

ゲッティ研究所の特別コレクションに収蔵された資料群に含まれるさまざまな記録物が検索・閲覧可能なものとなるためには、情報化の処理を欠かすことができない。つまり、アーキビストが資料群を整理し、「検索手段」を作成することで、それを頼りに、利用者は大量の資料の中から調査対象を見つけられるようになる。また、個々の資料 (アイテム) のロケーションが箱番号で示されるため、現物へのアクセスが容易になり、閲覧希望への対応が可能になる。

上記の図 3 に示したような「検索手段」は、欧米の美術史研究所や美術館においては、研究情報リソースとしての公開が進んでいる。一方、研究対象となるべき多くの美術資料を抱えているにもかかわらず、日本の美術館においては資料が未整理のまま保管されていることも多く、展示機会のないものはその存在を知られることがない。あるいは、学芸員や大学教員といった共通の関心をもつ人々の間の閉じた情報網で資料の閲覧や調査が進められることはあっても、資料そのもののもつ情報的価値が外側の研究者によって見出される可能性は極めて低い。

この現状を踏まえ、2021 年度の開館を控えた大阪中之島美術館は、30 年を超える新美術館建設準備期間中に作品とともに収集してきた美術関係資料、とりわけ関西の前衛美術グループとしてその活動が海外の研究者からも注目されている「具体美術協会」(1954-1972) の大規模資料群の受け入れをきっかけに、美術関係アーカイブズの所蔵情報を公開していくことを美術館活動のひとつに据えることとした。今回の研修は、日本の美術館としてはいまだ、研究リソースとしての共通認識がなく、効率的な

整理方法や情報公開のあり方が検討されてこなかった所蔵美術資料の整理と情報公開に積極的に取り組むために、1980年代後半に設立された比較的新しい文化機関でありながら、世界屈指の美術情報センターとなったゲッティ研究所の実務に学ぶものである。

## 2. 研修内容とその成果

### 2.1 ① 美術関連資料

本研修では、ゲッティ研究所の特別コレクション部門に受け入れてもらい、アーキビスト(Processing Archivist)のサラ・ウェイド氏の指導のもとで、資料整理のワークフローを一通り経験させていただいた。滞在期間が短いため、未処理のコレクションのなかから規模の小さなもの(ダンボール箱×2〔図6〕+大型の資料保存箱×1)を対象に、保存箱への入替え、内容記述、そして検索手段を作成する。

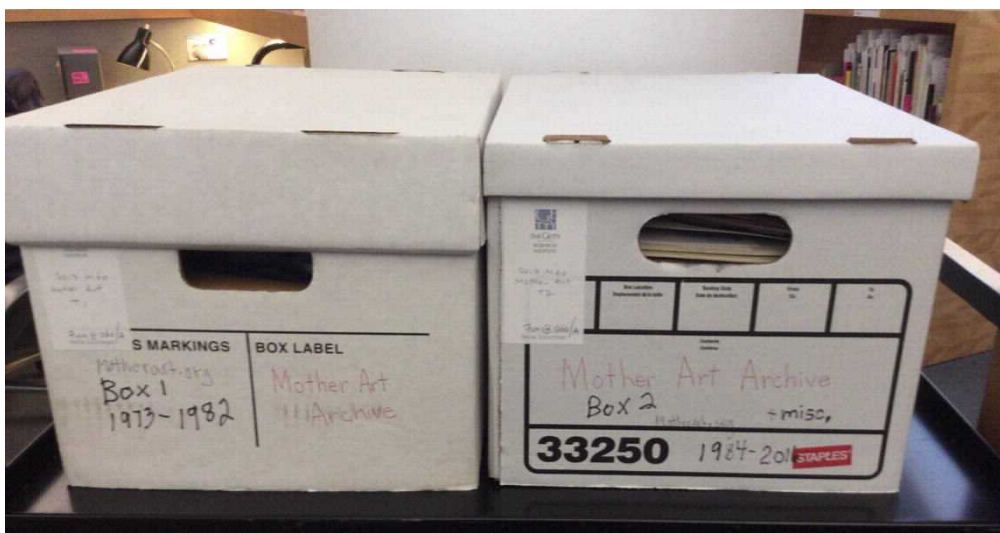


図6 整理対象資料

処理作業を始める前に、アーカイビングの基礎文献やゲッティ研究所内の職員用Wiki (Confluence System) から抽出した作業マニュアルを共有してもらい、ゲッティが採用しているMPLP(Mark Greene and Dennis Meissner [2005] More Product, Less Process: Revamping Traditional Archival Processing. *The American Archivist*: Fall/Winter 2005, Vol. 68, No. 2, pp. 208-263.) の考え方など、作業プランを立てるにあたって必要となる知識について説明を受けるとともに、学習の時間をいただいた。その後、これらの箱の中に何が入っているのか、次なる作業を念頭におきつつ、確認する作業を行なった。

次なる作業は処理計画(図7)の作成であり、これをもとに先々の作業が進行するため、原資料の秩序を生かすことが可能か、作業時間に無理がないかなど、処理担当者の判断について監督者が承認したうえで、実際の資料整理作業が始まる。ここでは、完了時期を明示することが必須とされており、スケジュール管理が重視されるため、大規模なアーカイブズであってもいつまでも取り残される(Backlogs=未処理により死蔵されるものになる)ということはない。

## 2017.M.60 Mother Art records

### PROCESSING PLAN: Mother Art records (2017.M.60)

**Creator(s):** Mother Art

**Provenance information:** The archives of Mother Art, donated by the three active members, Suzanne Siegel, Laura Silagi, and Deborah Krall, were generated during the course of the group's existence from 1973 to today.

**Processor:** Hitomi Matsuyama      **Supervisor:** Sarah Wade

**Additional staff:**

**Date assigned:** 2019 February 5

**Anticipated date of completion for processing and description (MANDATORY):** 2019 March

---

**Descriptive standards to be applied (required for all intern projects):** DACS

**Extent (unprocessed):** 4 linear feet (2 bankers boxes, 1 oversize box)

**Formats:** Project files and binders, notepads and notebooks, catalogs, clippings, ephemera, postcards, correspondence, posters, one original drawing, photographs, negatives, color slides, audiocassettes, videodiscs, and computer discs.

**Description of the collection:** Mother Art was a collective of women artists that formed in 1973 at the Los Angeles Woman's Building and was most active during the 1970s and 1980s. The collective was dedicated to creating social-political art around issues such as the social invisibility of maternal labor and the impact of the lack of socially supported day care on professional practices of working artist-mothers. The collection documents the group's artistic engagement with women's issues from 1974 to 2011 through photographs, posters, ephemera, clippings, and audio and videorecordings.

図 7 整理計画書 (部分)

この計画書には、資料編成プランを記載しており、保存箱への資料の入替えはこの編成プランにのっとって進めていく。今回の研修で担当した資料は、ロサンゼルスを拠点に1970～80年代に活動した女性美術家グループ Mother Art に関するもので、当時のメンバーから寄贈され、プロポーザルや補助金に関する事務書類が綴られたバインダー、展示やイベント名ごとにエフェメラ類が収納されたフォルダなど、すでにある程度分類されていたため、「事務書類 (Administrative files)」と「プロジェクトファイル (Project files)」の2つの大分類のもとに整理を進めることとした。

下階の保存庫にある資材置き場から必要なものを運び、記述 (Description、Scope Notes) に生かすことのできる資料情報についてメモを取りながら、資料をダンボール箱から保存フォルダへ移し、保存箱へ収納していく。ゲッティ研究所では、写真類ならびに各種メディアは、長期保存のための保管環境が異なるため、紙資料と分けて管理することとしており、それぞれのメディアの形状に合った保存箱に収納したうえで、適切な環境で保管する。したがって、もともとグループ化されていた複数の資料体が素材の違いにより引き離されることとなるため、資料を別置していることがわからなくならないよう対象資料には同内容一組の分離シート (Separation Sheet A/B、**図 8** と **図 9**) を中性紙で作成し、元の場所と移動先にそれぞれ入れていく。

物理的な整理 (リハウジング) を終えた時点で、Mother Art からの寄贈資料は文書用保存箱 1～3、写真用バインダーボックス 4～6、大型資料用保存箱 7～8、視聴覚メディア専用箱 9～12 に収納された。これらの箱の中身は、保存フォルダごとにナンバリングしているので、個々の資料アイテムの収納場所は「Box1, Folder1」などと表現される。整理過程では、時間をかければできることを今回の処理スピードにおいては省略する (例えば、金属クリップは取り外すが、ホッチキスまでは無理に取り外さな

い、セロハンテープの貼付けや破れなど自分で処置できないものには中性紙を挟んで目印とし、後からの処置を忘れないようにしておく、など) といったことや、情報価値のない付属物 (オリジナルの紙資料を保護していただけただけの封筒やフォルダ) や重複する印刷資料 (DM やパンフレットに多い) の除去など、判断の基準はそれぞれの機関によって多少異なるかもしれないが、限られたスペースを有効に使用して長期的に資料を保管し、利用可能な情報として提供し続けるという責務のもと、雑多なものを「参照可能な歴史資料」として価値付けていく作業を行っているということが強く意識された。

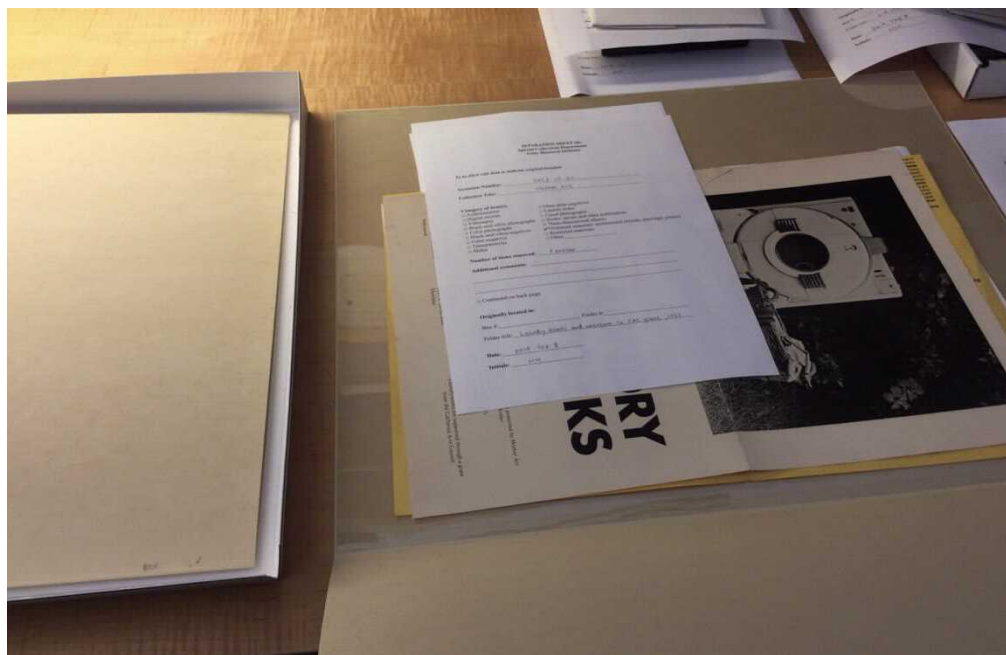


図 8 大型資料 (ポスター) の分離

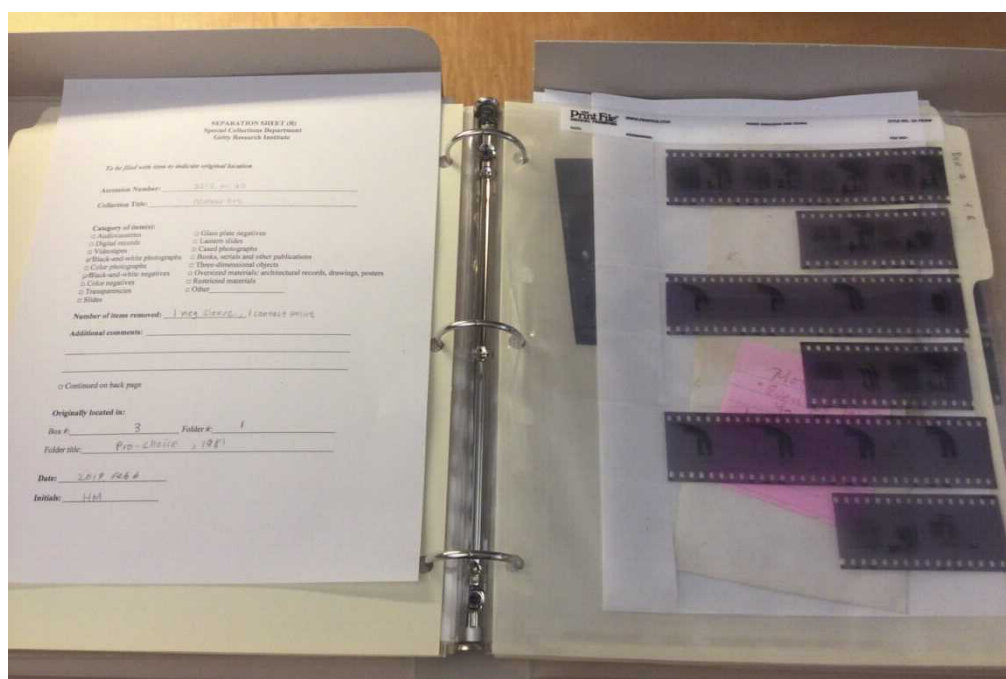


図 9 写真ネガの分離



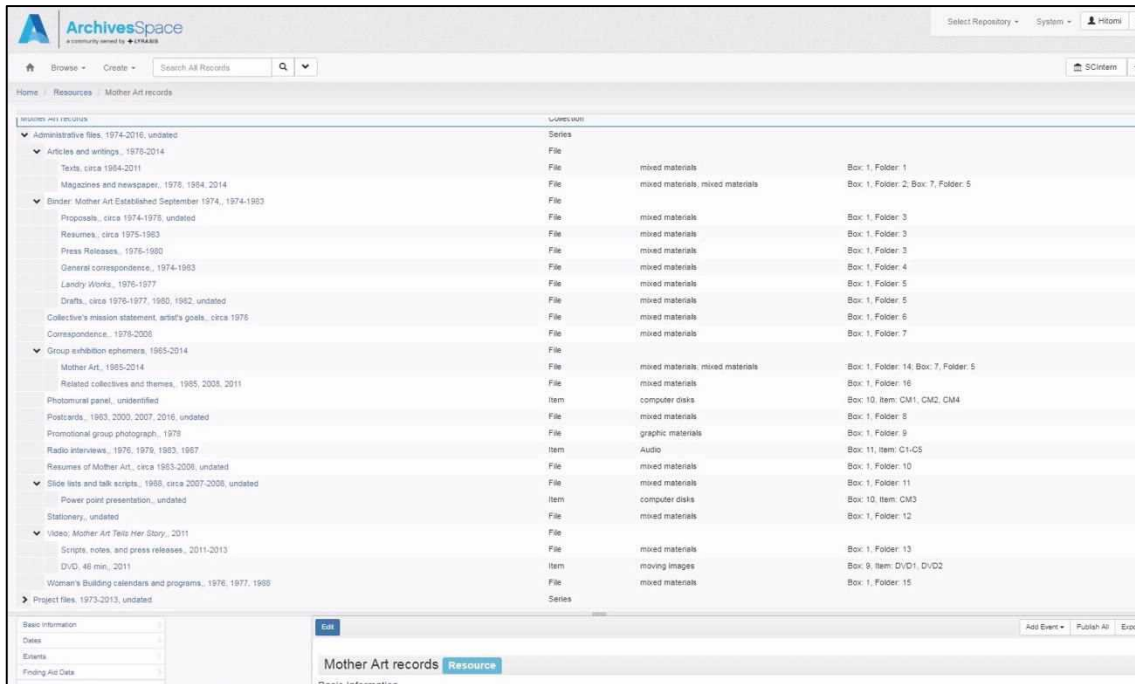


図 10 ArchivesSpace の登録画面

次に、検索手段を構成する記述情報を加えていく。この作業には ArchivesSpace (図 10) というオープンソースソフトウェアの情報管理システムを使用しており、登録情報から直接検索手段を生成し、PDF で出力することが可能である。本研修期間中に検索手段を完成させることはできなかったが、大阪中之島美術館においても来年度から同ソフトウェアの導入を予定しているため、実際の情報登録作業を通して使い方を学ぶ良い機会となった。

このシステムには、アーカイブズの情報化において特有の階層構造（コレクション概要－シリーズ概要－（サブシリーズ／）ファイル情報－個々のアイテム情報、等）をそのまま登録できる。今回の作業内容としては、「事務書類」と「プロジェクトファイル」をそれぞれシリーズ 1、シリーズ 2 として、その下位にファイル名（例えば、シリーズ 2 「プロジェクトファイル」以下には、「Playground, 1973」

「L. A. Guernica, 1982」など Mother Art によるアートイベントを年代順に配置した）を登録し、さらに下位情報として、それらのイベントファイルに属するさまざまな資料の小さなまとまり（フォルダ）をドキュメント、スライド、DVD などの媒体ごとに分けて記述した。箱番号とフォルダ番号を併記することで、それぞれの資料（内容物、アイテム）がどこに収納されているかがわかる。

作業は単純なように見えるが、実際、この作業はそれほど容易なものではなく、秩序を持たず雑にまとめられていたものを秩序立てる必要があったり、より具体的でわかりやすい表現を心がけたり、資料の残され方を観察しつつ、どのように構成すれば自然で明快かを常に思考し、ときにはフォルダ内の資料を適切に移動させながら、見出しをつけていく。またこのとき、資料の作成年代（域）は必須情報であるため、含まれる資料の作成年を資料から読み取って転記しておく。保存箱への収納時よりも資料を詳細に観察するため、フォルダが仮に年代順であった場合など、記述のうえでは物理的な順番が前後してしまうことも起こりうる。このとき、システム上でテキスト情報だけを順序立てて見やすく編集すればよく、実際は箱番号とフォルダ番号を正し

く紐付けておきさえすれば、物理的に資料を探すことはできるので、テキスト情報の順番に合わせてフォルダ番号を修正する必要はない（箱番号やフォルダ番号はすべて鉛筆で記しているため、時間があればもちろん保存場所としてのフォルダ番号そのものを修正してもよい）。

このようにして雑然とした資料群を物理的に整理し、テキスト化が済んだところで、資料全体についての記述（Descriptive Summary）、シリーズ構成とその内容について説明するスコープノート（Scope and Content Notes）を作成する。ゲッティ研究所では、記述すべき内容についてのルールはとくに決められていないが、参考として、ケンタッキー大学アーカイブの記述ガイドを教えていただいた。基本事項として、客観的な表現を用いること、量を示すこと、用語やフォーマットなど表現を統一することなどいくつかのルールのもと、書き出しの定型表現も提示されているので、アーカイブズの検索サイト全体に統一感が保たれており、また必要な情報にアクセスしやすい。今回はこのガイドのほか、すでにゲッティ研究所で公開されている検索手段を参照しながら、記述を作成し、複数回に及ぶ編集と監督者による承認を経たものが現在 Primo から確認できる。

[http://primo.getty.edu/GRI:GETTY\\_ALMA21179739400001551](http://primo.getty.edu/GRI:GETTY_ALMA21179739400001551)

美術関連資料を実際に整理する作業としては、研修中に実施できたのはここまでであったが、このほか、ゲッティ研究所における大規模なデジタル化プロジェクトの進行管理について（図 11）、視聴覚メディアの保存とオンデマンドデジタル化によるアクセスについて（図 12、図 13）、閲覧受付やレファレンスなど利用者サービスについて、受贈や資料貸出など資料の移動に関する手続きについて、担当する方々に直接会ってお話をうかがう機会を持つことができ、ゲッティ研究所の活動を多角的に知るだけでなく、それらの活動を一美術館という小さな現場においてどのように実行していけばよいのか、考えるための材料をたくさん提供いただいた。

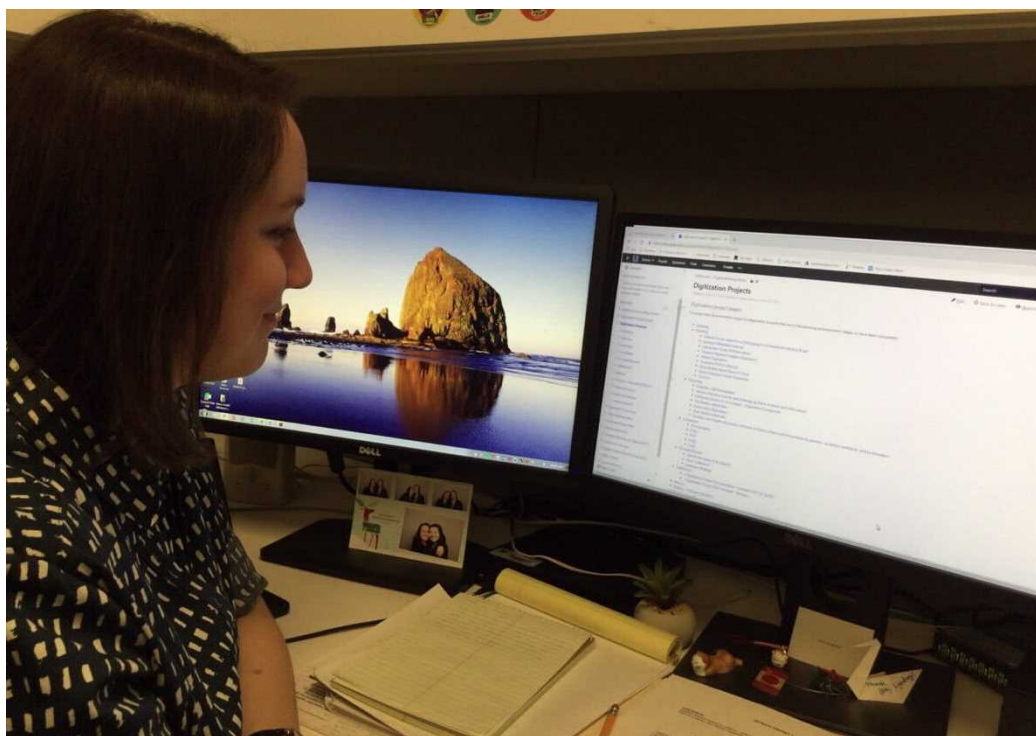


図 11 大規模デジタル化プロジェクトマネージャーの Lyndsey Godwin-Kresge 氏



図 12 AV 変換室(コンサベーション室内)  
Jonathan Furmanski 氏



図 13 ゲッティ研究所内のコンサベーション室

## 2.2 ② 機関アーカイブ

ゲッティ研究所の機関アーカイブは、情報資源としては特別コレクションに含まれるが、管理部門は独立しており、専門のアーキビストである Nancy Enneking 氏が管理している。収集対象、リテンションなどの基本事項は親組織であるゲッティ財団による情報マネジメントスケジュール (The Getty Information Management Schedule 2019) で規定され、ゲッティ研究所の活動に係る情報としては、収集と管理に関する記録 (Collection Acquisitions and Management)、展示とパブリックプログラムに関する記録 (Exhibitions and Public Programming) の収集が指示されている。さらに細かく収集対象についての記述を見てみると、以下のように示されている。

収集と管理に関する記録：

- ・ 収集、由来、受入れ、処分、保存、修復、貸出に関する記録 (永年保存対象とする)

展示とパブリックプログラムに関する記録：

- ・ 展覧会やパブリックイベントの開催のためのコンセプト、デザイン、計画に関わる会議録、通信、調査記録
- ・ ゲッティ研究所が主催するシンポジウムや講義、ワークショップ、パフォーマンス、コンサート、その他のイベントの音声や映像による記録、

画像、エフェメラ、プレス（注記：とくに、再利用や配布に関わるあらゆる権利、知財、著作権に関する記録を含む）

- ・ 滞在プログラムに参加する研究者や作家の応募書類、研究計画や経過に関わる資料

収集される記録の基本は「何があったか、なぜか」「判断」をたどることができるものである。多数のスタッフを抱え、人員の入れ替わりも多い機関の過去の失敗として、退職時に個人が業務に関わる記録を消し去るなどといったことも経験しており、機関アーカイブの収集にはドキュメント作成者となるスタッフすべての協力が必須であることが強調された。ゲッティ研究所では、新規採用スタッフへの講義などを通して、勤務者すべてが機関アーカイブの役割を理解するよう努めている。

近年の課題として、取り扱いデータのボリュームが増しているが、収集アーカイブとは異なり、オリジナルの情報メディア（CD-R や HDD など）は純粹にキャリアであると判断できるため、データ移動後のキャリアは処分対象となる。一方、電子メールや文書などについては、収集アーカイブであれ機関アーカイブであれ、共通の手法でメディアからの取り出しや変換を行う必要があるため、Digital Forensics のツールを用いてデータの真正性を確認しながら、オフラインのコンピュータでコンテンツ情報を取得する。スタッフはフロッピーディスクなどすでに陳腐化したメディアからのデータ救済にも対応するため、さまざまな再生機器、コネクタ、ソフトウェア

（BitCurator や Bagger など）を使用してデータを取り出し、オリジナルフォーマットを記録して、アクセス用に現在流通している標準フォーマット（PDF、JPEG、MP3、MP4）へ変換する。

Digital Forensics のツールは強力で、例えば USB などのキャリアから削除されたデータを復元することも可能であるが、（何かを隠蔽するためなど）故意に全てを消していることが明らかな場合を除き、ポリシーとして、受け入れ時に存在していないデータを（復元するなどして）遡って調べることはしない。

### 2.3 ③ 情報連携

上述における個の文化機関としてのアーカイブズ情報の作成と管理に加えて、ゲッティ研究所は長らく、国際的な情報連携プロジェクトのリーダーシップを取り、とりわけ Getty Vocabularies (<http://www.getty.edu/research/tools/vocabularies/>) は美術史研究における国際的な典拠として広く利用されている。これらの概要について、担当者からご教示いただいた。実感としては、大部分が小さな美術館の手に負えるものではなく、国家的な引導を必要とするものではあるが、一部、直接貢献が可能なケースについて、下記に簡単に紹介したい。

Getty Vocabularies は AAT (The Art & Architecture Thesaurus)、TGN (The Getty Thesaurus of Geographic Names)、ULAN (The Union List of Artist Names)、CONA (The Cultural Objects Name Authority)、IA (Getty Iconography Authority) からなり、それぞれの語彙情報はすべてユニーク ID で管理されているため、すでに内部連携している。またとくに、近年 AAT の充実に向け、海外の機関との連携を広く進めており、例えば、これまで英語圏で作成された定義が基礎となっていた中華圏の美術に関する用語については、台湾中央研究院歴史語言研究所の協力を経て、相互理解可能な用語としてオーサライズされるに至った。これらの統制語彙は、

Linked Open Data として提供されており、すでに美術館の作品レコードの主題や形式のインデックスに使用されている。日本からは、東京文化財研究所とGetty研究所の協力体制が締結され、今後、AATを含む情報連携の発展に期待が寄せられる。

AATのような美術全般を記述するための用語の統一にあたっては、専門的な研究機関として機能しているわけではない—美術館が協力することは難しいが、地方都市などを活動拠点とする日本の作家や美術館が強みとする特定分野（大阪中之島美術館の場合は、日本の工業デザイン分野など）に関わる人物情報については、蓄積されてきた情報をULANへ提供することで、人物データの新規登録やすでに存在する情報の精度の向上など、独自の貢献が可能である。出典機関として掲載されるため、これは美術館活動の可視化の一端として、美術館としてのデータ整備のインセンティブになると考えられる。メタデータ標準を持たないインハウスのデータベースに情報を蓄積している場合も、そこから書き出したデータの送付が可能であれば、それをもとにGetty研究所が提供データの整理方法を指示してくれるということであった。

最後に、今後、Getty研究所が積極的に参加する外部プロジェクト、Social Networks and Archival Context (SNAC <https://snaccooperative.org/>) にも触れておく。これは米国国立公文書館と北米の大学機関（バージニア大学人文科学高度技術研究所やカリフォルニア大学バークレー校情報学大学院）などが中心となって進めてきた一元的な情報プラットフォーム構築プロジェクトで、人物、団体、家族をキーワードとする記録やアーカイブズコレクションの情報を利用して、それらの人物の「ソーシャルネットワーク」を可視化しようとするものである。北米中心のプロジェクトから、近年は欧州からも参加が始まり、Getty研究所特別コレクション部門からの情報提供を含めた参加もこれから本格化するという。編集委員は、参加館を増やしていくため、ビデオチュートリアルの準備を進める計画をしているとのことで、日本の文化機関からの情報提供が今後可能となるよう、周辺機関とともに協力体制の構築を進めていきたい。

というのも、現在のところ、SNACからリンクされる情報の多くが、国際的な図書館蔵書データベースであるWorldCatのライブラリーカタログから提供されているため、人物や家族というアーカイブズの基礎情報をおおいに活用するプロジェクトでありながら、内容の薄いものが多くあり、例えば、日本の画家である「Kazuo Shiraga（白髪一雄）」をキーワードに検索すると、その情報は存在するものの、ニューヨーク近代美術館が所蔵する特別コレクションに由来しており、作家についての記述は生没年が示されるだけである。日本の美術館が圧倒的に詳細な情報を持つこういったエントリーに対しては、利用可能な情報を少しでも多く提供し、更新していくことが望ましく、そういった可能性を踏まえて、データ作製を進めていく必要がある。

### 3. まとめ

研修では、①における一連の整理作業としては、記述を行うところまでとなり、検索手段の完成には至らなかったが、研究資源として、資料が検索・利用可能なものとなる過程を追い、これまで不安を抱えながらも独自に実施していたことなど、さまざまな点で明確な指針を得ることができた。それ以上に、短い期間ではあったが、経験豊かなアーキビストと意見を交わし、よりよい方法について考えることのできる環境に身を置くことができ、これからも助けとなる多くの知己を得たことが、今後の自身

の現場活動にとって大きな意味を持つ。

また、情報連携プログラムの創設や協力体制など、ゲッティ研究所が美術情報センターとして担う役割を巨視的に眺めることで、地域や言語による情報の偏りを知る機会ともなり、今後、東京文化財研究所を中心とした「日本美術」に関する情報の提供によって、ユニバーサルかつ平等な研究環境が整えられていくことを期待したい。一方、自身の所属する地方の一美術館という微視的な視点からは、そこに蓄積されるローカルな情報に責任を持ち、それを国際的な情報網に載せていくことで、機関の存在をアピールできる仕組みを有効に活用していけるよう、情報の質の向上を目指したいと考える。

#### 4. 謝辞

本研修に際して、以下の方々に大変お世話になった。この場を借りて感謝申し上げたい。

ゲッティ研究所（アルファベット順、敬称略）

Kit Messick, Manger of Special Collections Cataloging and Processing

Kathleen Salomon, Associate Director of the Getty Research Institute

Jennifer Trotta, Project Admin

Sarah Wade, Special Collections Archivist

#### （４） 研修成果の活用計画

本研修で得られた成果として、まずは、大阪中之島美術館（所属機関）におけるアーカイブズの収集・処理フローを構築ならびに実践し、2021年度の開館時までには所蔵情報が公開できるようデータベース等情報インフラの整備と並行して、アーカイブズの処理作業を進めていく。また、国際標準や情報連携の動向に常に意識を向けつつ、これから公開する情報を広く利用可能にしていくための情報収集に務めることも重要であり、「美術館」という自らのドメインに拘らず、アーカイブズや情報サービスなど、国内外のさまざまな関係機関や専門家との積極的なコミュニケーションをはかっていきたい。